

正誤表

頁	頁行	誤	正
三	三	及び新座市	削除
三	三	市域	市境
五	一	高崎線	京浜東北線
五	三	南北	南東から北西
八	四〇五	黒ノッポ	黒ノッペ
一七	五	戸田方式	戸田の方式
一八	四	写真1—9 「管内」 の「管内」	「管内」 の「管内」
二八	四	穿孔貝	アナジャコ等
六四	後から四	分析結果は表にまとめた。 を示している。	削除 を示している（大後美保『天気予知 ことわざ辞典』）。

頁	行	誤	正
六六	二二三	大後美保氏	大後美保氏 (前掲の辞典)
八五	五	都内	東京都
八五	後から八	学説	説 (桜井正信『歴史細見 武蔵野』)
八五	後から二	一二月	五・五年一二月
八五	後から一	くらい	削除
九〇	六	羽村町羽村	羽村町羽
九一	八	都下	東京都内
九八	後から四	生物化学的酸素消費量	生物化学的酸素要求量
一〇七	一〇	台風二六号	台風二二号
一一五	三	オウストラロピテクス	アウストラロピテクス
一一五	巻2-1	フ・ク・ム・ク・ロ・ピ・テ・ク・ス	フ・ク・ム・ク・ロ・ピ・テ・ク・ス
一二二	一	石核から石片を連続的に 搔器等一定の形態	石核から連続的に 搔器等の形態
一二四	後から七		

頁	行	誤	正
一二五	後から六	横長剥片をした	横長をした
一二八	七	多いものは	多く、大規模な遺跡は
一二八	一〇、一一	長野県伊奈市神子柴遺跡から多量に出 土し、標式的遺跡とされ	標式的遺跡とされる長野県伊那市神 子柴遺跡から多量に出土し、
一三四	後から四	発見は	発明は
一三五	二	旧石器	狩猟採集
一三六	巻2-2	巻の部分訂正	別巻のように訂正
一三八	三、四	燃系の側面圧痕や燃系の先端を刺突し たものや絡糸体圧痕文などの	燃系の側面圧痕 (絡糸体圧痕文) や燃 糸の先端を刺突したものなどの
一四〇	八	渦巻等	渦巻文等
一四〇	八	軸	中心
一四〇	後から一	次第に量を	次第に繊維の量を
一四二	後から七	かわる。	加わる。

頁	行	誤	正
一四三	写真2—8	(入間市金堀沢遺跡)	(入間市金堀沢遺跡)
一四四	二	貼付けた細い粘土紐を	細い貼付け粘土紐を
一四五	後から七	大きな流れを	地域ごとの大きな流れを
一四五	後から二	大きな指標に	指標に
一四八	写真2—10	泉木山遺跡	泉木山遺跡 (朝霞市)
一五〇	四	縄文を描く	文様を描く
一五八	図2—10	スケールのまちがい	別紙のように訂正
一六二	図2—12	スケールのまちがい	別紙のように訂正
一六六	三	人類	縄文時代
一六六	一—一—二	打越遺跡は「打越式」と呼ばれ、東海	打越遺跡から出土した土器は、東海
一六七	一	地方の影響を受けたと思われる土器が中心である。 土器は	地方の影響を受けたと思われる「打越式」と呼ばれる土器が中心である。 土器の地文は

頁	行	誤	正
一六九	六	縄文系	斜・縄文系
一七〇	三	を出土した遺跡は	削除
一七〇	後から二	住居跡のなかには	住居跡の覆土のなかに
一七三	図2—16	スケールのまちがい	別紙のように訂正
一七四	後から一	意味	意義
一七六	二	市域周辺で調査の進んだ	大宮台地で調査の行われた
一八〇	七	過・飾性	装・飾性
一八七	後から五	阿玉台の	阿玉台期の
一八七	後から三	勝坂式の	勝坂期の
一八八	後から五	藤内期の	藤内式期の
一八八	後から三	出土しているが、	出土しており、
一九〇	図2—22	土・城出土の	妙・藏寺遺跡出土の
一九九	六	カキ、ハマグリ(多量)、	カキ、ハマグリ(以上やや多い)、

頁	行	誤	正
一九九	八	少量のハマグリのほかはごく微量。	やや多いハマグリのほかはごく少量。
一九九	後から四	ガン、カモ、	ガンカモ、
一九九	後から二	イノシシ、ニホンジカ（最多）、	ニホンジカ（最多）、イノシシ、
二〇八	後から二	継続する	属する
二〇八	三	並んでいる。	並んでいる（図2-44）。
二四六	一	上組、鶴ヶ丘	上組・鶴ヶ丘
二四六	一	美里町	児玉町
二四六	二	將軍山	將軍塚
二五〇	後から三	好対称	好対照
二五二	四	耕作可能な	耕作可能な低地に接した
二五八	後から一	七号横穴墓	六号横穴墓（図2-58）
二六〇	一	七号横穴墓	六号横穴墓
二六五	後から六	文武二年	文武天皇二年

頁	行	誤	正
二六五	後から四	多摩郡（現国立市）	多摩郡（現東京都府中市）
二六五	後から一	みられる。	存在するという意見もある。
二九九	七	〔吾妻鏡〕	〔吾妻鏡〕以下注無きは同じ
三〇二	七	射拳る	射奉る
三〇九	五	新補地頭	新補地頭
三三四	七	〔中興系図〕	〔中興系図〕
三三七	後から八	〔承久軍物語〕	〔承久軍物語〕
三三七	後から四	北区中里	東京都北区
三三七	後から一・二	熊野	熊野
三三八	後から二	（後から二行の後に加える）	（但し、引用史料の仮名遣いは、現在の表記に改めてある（以下同じ））
三三八	後から一	小川口	に川口
三四〇	五	二七〇余年	二七〇余年

頁	行	誤	正
三四〇	六	ありぬ……こひぢ	なりぬ……こひぢ
三四一	一〇	『発心集』	『発心集』
三四三	二、四	「朝夕呼びかえし奴」	「朝夕よびつかえし奴」
三四九	八	ホ方、	方ホ、
三五二	一	執権泰時	執権義時
三五三	後から一	条件	事件
三五四	後から一	元弘三年（一二三三）	元弘三年（一二三三）
三五五	一	追討軍を上落させた。	追討軍の上落を命じた。
三五五	一一	名和・高家	名越・高家
三五六	後から二	花園・兩院	花園・兩院
三五八	下段八	輩 <small>ともがら</small>	輩 <small>ともがら</small>
三五八	後から二	小手指河原	小手指原
三五九	六	嘉禄・安貞（一二三五～一二二八）	嘉禄・安貞（一二三五～一二二九）

頁	行	誤	正
三六二	四	延慶（一二三〇～一二三二）	延慶（一二三〇～一二三二）
三六二	四	正中（一二三四～一二三五）	正中（一二三四～一二三六）
三六二	後から六	天長年間（八二四～八三三）	天長年間（八二四～八三四）
三六二	後から二	寛元年間（一二四三～一二四六）	寛元年間（一二四三～一二四七）
三六三	一	正安二年（一二三〇）	正安三年（一二三〇）
三七二	六	二九か所	三〇か所
三七二	九	一〇か所	一五か所
三七三	一	成良親王	成良親王
三七三	一	義良親王	義良親王
三七八	一〇	康永年間（一二四二～一二四四）	康永年間（一二四二～一二四五）
三九一	五	（五行の後に加える）	（但し、引用史料の仮名遣いは、現在の表記に改めてある（以下同じ））
四一〇	後から五	永寿王丸	永寿王丸

頁	行	誤	正
四二八	一〇	(一〇行の後に加える)	(但し、カタカナはひらがなにし、 濁点を補った(以下同じ))
四二九	四	(原文どおり)	削除
四三三	一	天文年間(一五三二―一五五四)	天文年間(一五三二―一五五五)
四三三	一	(第五節)	削除
四四一	七	(続本朝通鑑、本土寺過去帳)	(続本朝通鑑)「本土寺過去帳」
四四四	七	前節(四一九ページ)	前章(四一九ページ)
四四四	後から一	文明一七年(一四八七)	文明一七年(一四八五)
四四五	後から二	康暦元年(二〇七九)	康暦元年(二三七九)
四四九	一〇	役帳と略称	「役帳」と略称
四五二	下段五	此外、十八貫	此外十八貫文
四六六	三	師岡采女佑	師岡采女佑
四六八	一〇	彈正忠綱秀	三田彈正少弼(綱秀)

頁	行	誤	正
四六八	一〇	上杉政虎(謙信)	長尾景虎(上杉謙信)
四六九	三	師岡采女佑	師岡采女佑
四六九	三	三葉かレハ	三葉かしハ
四六九	後から五	天正十五年(一五四六)	天文十五年(一五四六)
四七六	後から五	「としま 名字のかき立」	「としま之名字かき立」
四八五	五	元徳期(二三三九―二三三〇)	元徳期(二三三九―二三三二)
四八五	六	応安期(二三六八―二三六九)	応安期(二三六八―三三七五)
五一一	後から八	(安得虎子)	(安得虎子)
五七八	後から六	元禄二月	元禄二年
六二三	五	弓鏹	弓・鏹を

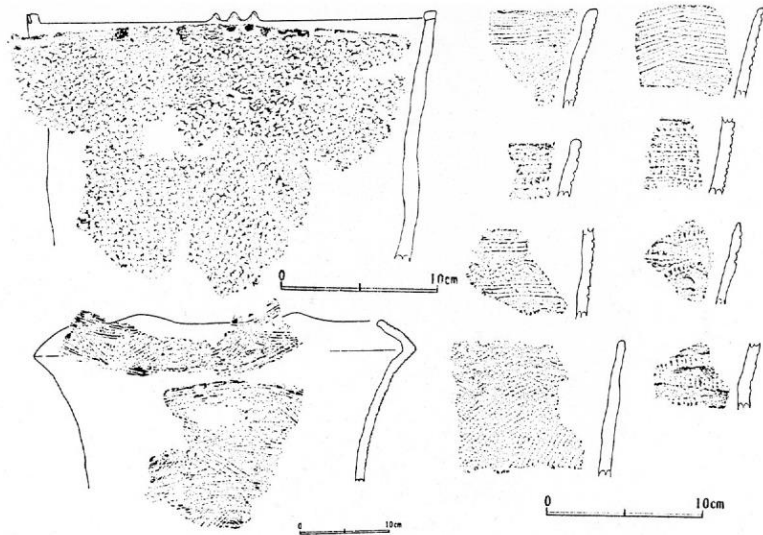


図 2-16 市域出土の縄文前期の土器 左上段 関山式土器(城山南遺跡)
 左下段 諸磯b式土器(市場峡遺跡) 右拓影図 黒浜式土器(吹上遺跡)

表2-2 関東縄文土器編年表と主要遺跡

地方時代	関東		和光市内の主要遺跡		和光市周辺の主要遺跡		推定年代(B・C)	
草創期	隆線文系 爪形文系 多縄文系		— — —		ハケ上(富士見市)		10,000	
早期	燃糸文系	井草・大丸 夏荷台 稲輪台・大浦山	市場峽 白子宿上		栗谷ツ(富士見市)		7,000	
		沈線文系 ・押型文	三戸下層 田戸上層	白子宿上 吹上貝塚		針ヶ谷北通(富士見市)		
前期	条痕文系	子野鶴ヶ島 茅山山下層 茅山山上層	白子宿上 吹上 午王山		ハケ上 山室(富士見市) 打越(富士市)		4,000	
		羽状縄文系	花積下層 関山	白子宿上 城山南 白子貝塚 吹上		打越 打越 殿山貝塚(富士見市) 内畑(新座市) 岡貝塚(朝霞市)		
前期	諸磯諸磯諸磯 (竹管文系) 浮島 興津	諸磯諸磯諸磯	a b c	吹上 市場峽		針ヶ谷北通 内畑 水子貝塚(富士見市)		3,000
		五領ヶ台 勝坂阿玉台	I II III	吹上		嵯峨山(新座市)		
		加曾利E 加曾利 加曾利 加曾利	E I E II E III E IV	吹上 妙蓮寺 城山南		羽沢(富士見市) 松の木(富士見市) 泉水山(朝霞市) 嵯峨山		
後期	称名寺内 堀之内 加曾利B 曾谷安行	称名寺内 堀之内 加曾利 加曾利 曾谷安行	I II BI BII BIII 谷 行 行	四ツ木 白子宿上 四ツ木 丸山台 吹上 吹上 四ツ木		本目(富士見市) 北通(富士見市) 本目 打越		2,000
		晚期安約 前浦 亀ヶ岡	安行 III a 安行 III b 安行 III c	吹上		鑑田(朝霞市)		1,000
晚期	浮線網 状文系	千荒網海					300	

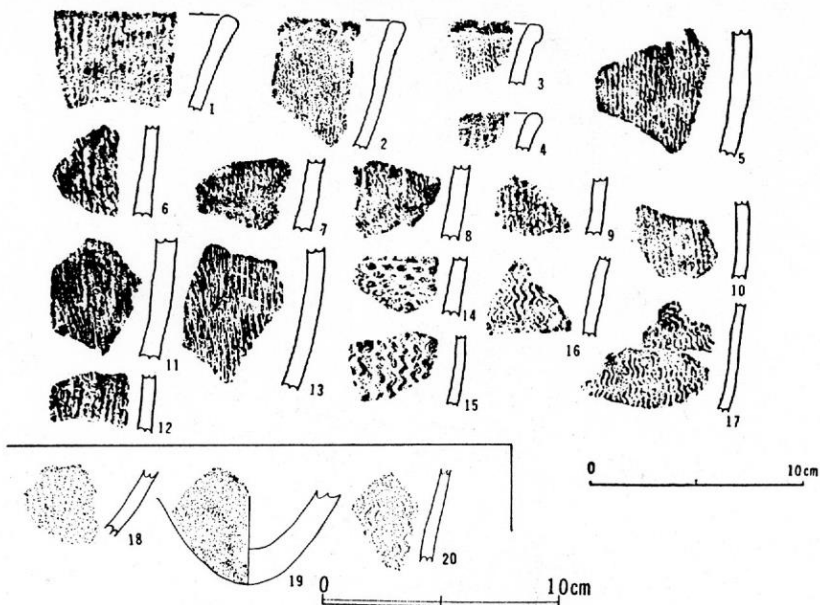


図 2-10 和光市域出土の早期土器群

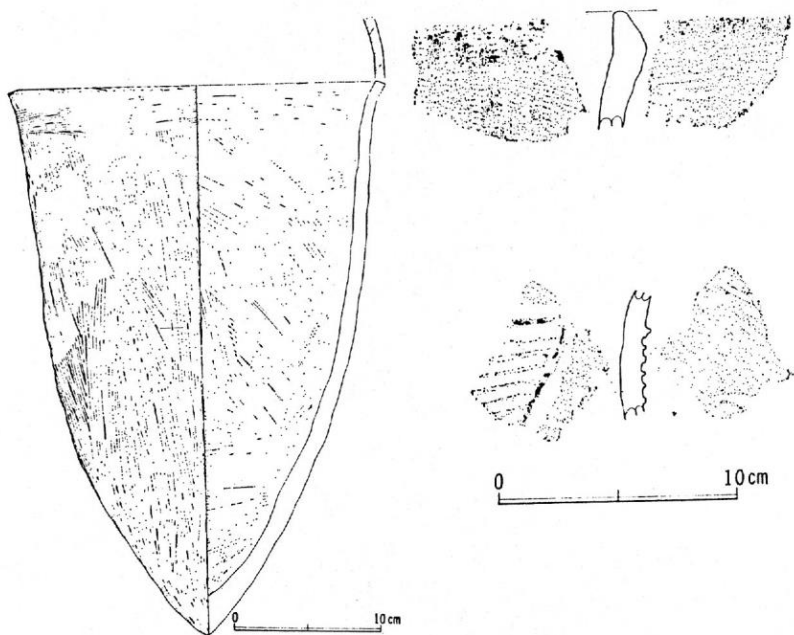


図 2-12 市場峡遺跡出土の条痕文系土器